

【震災遺構】大槌町旧庁舎の解体始まる



▲保存のために取り外される大槌町の旧役場庁舎の壁掛け時計(1月15日午前、岩手県大槌町 鴨川一也撮影)

震災遺構の例では、宮城県石巻市の大川小旧校舎の保存が決定。南三陸町の防災対策庁舎は県の管理で残り、震災20年後の2031年に保存の是非を判断する。一方、気仙沼市に打ち上げられた漁船「第18共徳丸」など、解体されたものもある。



【保存：大川小学校跡地】2016年3月、石巻市は被災した大川小学校の旧校舎を存置という形で、全体を震災遺構として保存することとなった。遺族の中には「校舎を見たくない」という意見もあるため、周辺を公園化して、植栽などで校舎を囲むことが検討されている。2018年5月には国連事務総長特別代表(防災担当)の水鳥真美が視察に訪れた。(wikipedia/画像はgoogle:2018年5月・菅原大助撮影)

(朝日新聞デジタル) 東日本大震災の津波で職員の数が増えた岩手県大槌町旧庁舎の解体が1月19日朝、本格的に始まった。
津波の脅威を後世に伝える震災遺構としての保存か、「見るのがつらい」という被災者の思いに沿った解体かで町を二分した議論は、住民訴訟にまで発展した。17日の盛岡地裁の判決で解体工事の差し止め請求は退けられ、平野公三町長は18日の着工を明言していたが、折からの強風で19日に延期されていた。
この日の工事では、津波で一部めくれあがった庁舎西側の外壁から、重機を使って取り壊し始めた。
2月中旬までに本体を解体したあと、基礎などの撤去作業に入り、3月上旬までに整地作業などを終える予定だという。工期は3月25日まで。(本田雅利)



【保存：南三陸町防災対策庁舎】鉄骨3階、高さ12メートル。東日本大震災で15.5メートルの津波に襲われ、骨組みだけが残った。佐藤仁町長は2013年9月、町単独では保存経費が重荷になることなどを理由に解体を表明。同年12月、県が震災遺構有識者会議の検討対象に防災庁舎を加え、解体は実質的に保留されている。現在は施設、土地ともに南三陸町が所有している。(「すけさきた」2015年2月に掲載)

津波耐えた閑上の桜、福岡に 豪雨復興願い植樹式



▲福岡県朝倉市松末地区住民らの手で旧松末小グラウンドに植樹される「なとり復興桜」の苗木=2月8日午前

(神戸新聞NEXT) 東日本大震災で津波被害に遭った宮城県名取市・閑上地区の桜の木から育てた苗木3本が九州北部の豪雨で被災した福岡県朝倉市に贈られ、2月8日植樹式が開かれた。関係者は「復興の思いを共有したい」と願う。
植樹式は、豪雨で校舎が被災し、統合で廃校となった旧松末小のグラウンドで開催。林裕一朝倉市長や市民約40人は、復興への願いを込め、スコップで丁寧に植えた。苗木は、閑上地区の復興のシンボルにしたいと、地元住民や専門家らが「なとり復興桜」として育成を続けており、今回初めて宮城県外に贈った。
林市長は「にぎわいを取り戻すため、復旧、復興をしっかり」と進めたい」と述べた。

we support!

RQ
災害教育センター

MONTHLY

「東北に黒糖を送ろう!大作戦しんぶん」改め
復興支援『すけさきた』しんぶん
かめばん

「すけさきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である

FEBRUARY
11
2019

資料：朝日新聞デジタル、wikipedia、google、神戸新聞NEXT